

VMAJ ベンダーマネージャー育成プログラム

# Oracle Database

## ベンダーマネジメント実務ガイド

版	v1.1
作成日	2026年6月
作成者・発行者	イタムス株式会社 (ITAMS)
対象読者	Oracle ベンダーマネージャー・調達担当・DBA・クラウド担当
一次情報基準日	2026年5月29日 (付録Aの一次情報台帳参照)

### 【注意事項】

本資料は Oracle 公式一次情報に基づく教育資料です。個別契約・発注書・LIUM が常に最優先です。法的助言ではありません。

## はじめに — VMAJ 教育体系における本資料の位置づけ

本資料は、イタムス株式会社（ITAMS）が提供する VMAJ の「ベンダーマネージャー育成プログラム」の一環として、Oracle Database のライセンス・契約管理に特化した実務ガイドです。

VMAJ の教育体系では、ベンダーマネジメントの中核を「Demand-to-Contract-to-Service Control（需要・契約・サービス供給のマッチング統制）」として定義しています。ビジネス部門から発生するライセンス要求・サービス要求を、契約条件・使用許諾条件・供給能力・コスト制約に適合させる能力がベンダーマネージャーに求められます。

Oracle Database においては、この「マッチング統制」は特に複雑です。ライセンスメトリック（Processor/NUP）・仮想化条件・クラウド利用ルール・Options/Packs・サポート更新・監査対応が絡み合うため、ビジネス要求を受けてから供給可能な権利との照合・確認を行うプロセスを体系的に理解しなければなりません。

本資料は以下の目的で活用してください。

- ビジネス部門からの Oracle DB 利用要求に対し、契約・使用許諾条件の観点から適切に対応できるベンダーマネージャーの育成
- Oracle 監査（LMS/GLAS）に備えた証跡整備と対応体制の構築
- クラウド移行・仮想化・コンテナ環境でのライセンスリスクの識別と管理
- サポート更新・契約ライフサイクル管理を通じたコスト最適化

**本資料で扱う Oracle Database の管理対象は以下のとおりです。**

- Oracle Database Enterprise Edition（EE）・Standard Edition 2（SE2）・Oracle AI Database Free
- Database Options（Active Data Guard、Advanced Security、Partitioning、Multitenant 等）
- Database Management Packs（Diagnostics Pack、Tuning Pack 等）
- Oracle Cloud Infrastructure（OCI）および Authorized Cloud Environments（AWS/Azure/GCP）上での利用
- データリカバリ（DR）・コンテナ・Kubernetes 環境
- サポート更新・契約ライフサイクル（License Set、Matching Service Levels、Reinstatement）

VMAJ 教育体系の他の領域（クラウド・SaaS・FinOps、ITAM/SAM/SLAM、VMO 設計等）と組み合わせることで、組織全体のベンダーマネジメント能力を高めることができます。



## 第1章 Oracle 契約・一次情報体系

Oracle ライセンスを正確に管理するには、どのドキュメントが法的拘束力を持ち、どれが教育目的の参考資料にとどまるかを明確に理解することが不可欠です。この峻別を誤ると、Oracle 営業担当・監査担当の非公式な見解に惑わされ、不必要なライセンス調達や誤ったリスク評価につながります。

### 1.1 Oracle の契約モデル

Oracle の契約モデルは「Agreement（合意書）＋ Order Documents（発注書）＋ Service Policy（サービスポリシー）」の3要素で構成されます。

要素	代表文書	法的位置づけ	実務上の重要性
Agreement（合意書）	OLSA / OMA / CSA	最上位。顧客と Oracle の包括的な取引関係を規律	顧客固有の特別条項（Amendment）があれば最優先確認
Order Documents（発注書）	Ordering Document / Order Form	商業的アンカー。製品・数量・メトリック・価格を確定	ライセンス数・メトリック・オプション構成の拠り所
Program Documentation	LIUM (Licensing Information User Manual)	Agreement に「組み込まれた」プログラム仕様書	エディション別機能制限・Options/Packs 許諾・Restricted Use を規定
Service Policy	Software Technical Support Policies	サポートサービスの条件を規律	更新費算定・Matching Service Levels・Reinstatement 等
教育目的ポリシー	Partitioning Policy・Cloud Policy・DR Policy 等	非契約的。契約に組み込まれず約束を構成しない	監査・商談で事実上の判断基準として使用される

△ 教育目的ポリシー文書（Partitioning Policy 等）は「非契約的だが実務上回避不能な技術要件」です。文書内に免責事項が明記されていますが、LMS 監査では事実上の算定基準として扱われます。（→付録 A: R6, R7, R9, R10 参照）

## 1.2 ドキュメント優先順位マップ

ライセンス解釈の優先順位は以下の通りです。上位文書が下位文書に優先します。

優先順位	文書種別	具体例	拘束力
① (最優先)	個別合意書+Amendment	OLSA/OMA+追加条項	法的拘束力あり
②	Ordering Document	発注書・注文条件	法的拘束力あり
③	Program Documentation (LIUM)	Oracle 26ai LIUM G43241-08	Agreement 参照により法的拘束力あり
④	Service Policies	Software Technical Support Policies 06-Feb-2026	サービス条件として拘束力あり
⑤ (参考)	License Definitions and Rules	v121525 (Dec 15, 2025)	Agreement で参照。メトリック定義の拠り所
⑥ (参考)	教育目的ポリシー文書	Partitioning Policy 等	非契約的。ただし監査・商談では重要

## 1.3 一次情報の日常管理

Oracle 一次情報は予告なく更新されます。ベンダーマネージャーは以下の管理を徹底してください。

管理項目	推奨頻度	確認方法
LIUM (26ai・19c 等の使用バージョン)	四半期または主要リリース時	Oracle Docs サイトで版番号を確認
License Definitions and Rules	年 1 回または改訂時	oracle.com/contracts/a-z/ldr/ で最新版確認
Processor Core Factor Table	改訂通知時 (年 1~2 回)	oracle.com/contracts/docs/processor-core-factor-table-070634.pdf
Partitioning/Cloud/DR Policy	改訂通知時	各 URL で発効日を確認
Software Technical Support Policies	改訂時 (年 1~2 回)	oracle.com/contracts/docs/057419.pdf

※ 本資料の付録A に全一次情報の版・URL・確認日を集約しています。

### ▶ 実務チェックポイント

- OLSA/OMA/CSA、すべての Ordering Document、Amendment を台帳管理しているか
- 現在使用中の Oracle Database バージョンの LIUM（26ai または 19c 等）最新版を確認済みか
- 社内で LIUM と発注書が一致していること（メトリック・Options/Packs）を定期検証しているか

## 第2章 Oracle Database ライセンス基礎

Oracle Database のライセンスメトリックは「Processor（プロセッサ）」と「Named User Plus（NUP）」の2種類が基本です。加えてエディション（EE/SE2/Free等）によって適用範囲と制約が大きく異なります。（→付録A: R3, R5 参照）

### 2.1 エディション比較

エディション	主な用途	Processor 上限	ソケット上限	スレッド上限	NUP 最小
Enterprise Edition (EE)	高性能・高可用性。本番ミッションクリティカル	無制限	無制限	無制限	25 NUP/プロセッサ
Standard Edition 2 (SE2)	ワークグループ・部門システム	Physical Socket 単位	最大2ソケット	最大16スレッド（自動制御）	10 NUP/サーバー
Personal Edition	開発・テスト（1ユーザー）	N/A	N/A	N/A	NUPのみ（1名）
Oracle AI Database Free	開発・学習・小規模	2 CPU 上限	N/A	N/A	N/A（無償）

\* SE2 でRAC は使用不可。SE2 は「Standard Edition High Availability」機能のみ利用可（EE-ES/Oracle Database Appliance 上）。

### 2.2 Processor ライセンス算定規則

Processor メトリックは、エンドユーザー数の特定が困難な環境、またはユーザー密度が高く Processor 単位の方がコスト効率が良い場合に採用します。（→付録A: R3, R5 参照）

ステップ	計算内容	具体例（Intel Xeon 12コア×2ソケット）
①物理コア数の集計	サーバーに搭載されているすべての物理コア数を集計	12 コア × 2 ソケット = 24 コア
②コア係数の適用	Processor Core Factor Table (Jan 28, 2026) の CPU モデル別係数を乗算	Intel Xeon → 係数 0.5 24 × 0.5 = 12
③切り上げ	計算結果に端数が生じた場合は必ず切	12.0 → 12 プロセッサライセンス

処理	り上げ（整数）	
④SE2 の場合	Physical Socket（物理ソケット）単位でカウント。最大2ソケットに制限	2ソケット = 2 プロセッサライセンス相当

△ Multi-Chip Module（MCM）搭載サーバーでは、各チップを独立した「占有されたソケット」としてカウントする特例があります。物理アーキテクチャの内部構造まで検証してください。

## 2.3 Named User Plus（NUP）算定規則

NUP メトリックは「識別可能なすべての人間」および「非人間が操作するデバイス」をライセンス対象とします。（→付録 A: R3 参照）

アクセス主体	カウント対象	例
人間ユーザー	データベースに直接・間接アクセスするすべての人間	社員・外部委託先・パートナー
非人間デバイス（自動）	直接接続するデバイスのすべて	IoT センサー・自動販売機・POS 端末
人間が操作するデバイス	操作者（人間）をカウント	スキャナーを操作する作業員
デバイス+人間が独立してアクセス	デバイス数+人間数を合算	工場の人間作業員 50 名+IoT 機器 100 台 = 150 NUP
エディション	NUP 最小要件	具体例（24 コア/12 プロセッサのサーバー）
EE	プロセッサ数 × 25 NUP と実ユーザー/デバイス数のうち多い方	12 × 25 = 300 NUP（実ユーザーが 10 名でも 300 NUP 必要）
SE2	サーバー 1 台あたり最低 10 NUP と実ユーザー/デバイス数のうち多い方	実ユーザー 7 名でも 10 NUP 必要

## 2.4 Multiplexing（多重化接続）

Multiplexing とは、接続プールや中間層等を経由して複数ユーザーが単一接続を共有する仕組みです。Oracle License Definitions and Rules v121525 は multiplexing を明確に規定しています。（→付録 A: R3 参照）

ケース	ライセンス対象	注意点
接続プール・中間層経由	最終エンドユーザー全員 (プールの接続数ではない)	プールの接続数が1でも、背後のユーザー全員をカウント
バッチ処理 (非人間)	バッチを起動するアプリケーション (デバイス扱い) またはユーザー	バッチが人間ユーザーの代理で動く場合は人間をカウント
共有アカウント (Generic ID)	そのアカウントを使用するすべての人間またはデバイス	共有IDを1 NUPとしてカウントすることは不可
外部委託先・パートナー	外部からアクセスするすべての識別可能な人間またはデバイス	自社外でも Oracle ライセンスの適用範囲

#### ▶ 実務チェックポイント

- Processor ライセンス計算時に Processor Core Factor Table (最新版) で CPU モデルを確認したか
- SE2 環境で物理ソケット数が2以下であることを確認したか (2ソケット超は違反)
- NUP 算定で multiplexing・接続プール・共有ID・外部委託先のアクセス者を含めているか
- EE の NUP 最小要件 (プロセッサ数×25) を満たしているか

## 第3章 Options / Management Packs / Multitenant / Restricted Use

Oracle Database EE には多数の「追加費用オプション (Options)」と「管理パック (Management Packs)」があります。これらは明示的に購入しない限り使用してはなりません。実際の違反の多くは「意図せず」Options/Packs の機能を使用したことで発生します。(→付録 A: R1, R2 参照)

### 3.1 主要 Options カタログ (EE 追加費用)

Option 名	主な機能	EE/EE-ES 適用	OCI 包含 (参考)	使用検知の重要度
Oracle Active Data Guard	Physical Standby Read-Only (Real-time Query)、Far Sync、Global Data Services	Extra cost	BaseDB EE-EP/ExaDB: 込み	高 (Standby 開放で即違反)
Oracle Advanced Compression	Advanced Row/LOB Compression、Data Guard Redo Transport Compression 等	Extra cost	Free/BaseDB EE-HP 以上: 込み	高 (無意識な圧縮設定で違反)
Oracle Advanced Security	TDE (列・表領域)、Data Redaction、DataPump 暗号化、RMAN 暗号化	Extra cost	Free/BaseDB EE-HP 以上: 込み	最高 (TDE 有効化で即違反)
Oracle Database In-Memory	In-Memory Column Store、In-Memory Aggregation 等	Extra cost	Free/BaseDB EE-EP/ExaDB: 込み	高 (INMEMORY 属性で違反)
Oracle Database Vault	Command Rules、Realms 等セキュリティ強制	Extra cost	Free/BaseDB EE-HP 以上: 込み	中
Oracle Multitenant	252 PDBs (EE) または 4096 PDBs (EE-ES/OCI)	Extra cost	BaseDB EE-HP 以上: 込み	最高 (PDB 数超過で即)

				違反)
Oracle Partitioning	テーブル・インデックスのパーティション化	Extra cost	BaseDB EE-HP 以上: 込み	高 (パーティション表作成で違反)
Oracle Real Application Clusters (RAC)	複数ノードクラスター。SE2 では使用不可	Extra cost	BaseDB EE-HP 以上: 込み	高
Oracle Advanced Analytics (機械学習)	Oracle Machine Learning (旧名称)	無償化済み (追加費用不要)	全エディション: 込み	N/A (無償)
Oracle Spatial and Graph	空間データ・グラフ管理	無償化済み (追加費用不要)	全エディション: 込み	N/A (無償)

\* Oracle Machine Learning (旧Advanced Analytics) およびOracle Spatial and Graph は追加費用が不要になりました (26ai LIUM G43241-08 確認)。

### 3.2 主要 Management Packs カタログ (EE 追加費用)

Management Pack	主要機能	EE/EE-ES	重要な使用検知ポイント
Oracle Diagnostics Pack	AWR・ASH・ADDM・自動パフォーマンス診断	Extra cost	DBA_HIST_* views、V\$ACTIVE_SESSION_HISTORY、awrrpt.sql、DBMS_WORKLOAD_REPOSITORY パッケージ
Oracle Tuning Pack	SQL Tuning Advisor、SQL Access Advisor、Automatic SQL Tuning、Real-time SQL Monitoring	Extra cost (Diagnostics Pack 必須)	DBMS_SQLTUNE、DBMS_AUTO_SQLTUNE、V\$SQL_MONITOR
Oracle Database Lifecycle Management Pack	Database Provisioning/Patching/Upgrade、Compliance Management 等	Extra cost	ENABLE_DDL_LOGGING=TRUE (init.ora パラメータ)
Oracle Data Masking and	テスト用データのマスク	Extra	Application Data

Subsetting Pack	ング・サブセット化	cost	Modeling、Data Masking Definitions
-----------------	-----------	------	-----------------------------------

△ AWR レポート (awrrpt.sql、ashrpt.sql 等) を実行しただけで、Oracle Diagnostics Pack のライセンスが必要となります。DBA が「慣習的に」実行している作業が違反の原因になることが多いです。

### 3.3 CONTROL\_MANAGEMENT\_PACK\_ACCESS パラメータ

Oracle EE サーバーでは、init.ora パラメータ CONTROL\_MANAGEMENT\_PACK\_ACCESS によって Diagnostics/Tuning Pack へのアクセスを制御できます。ライセンス未取得の場合は NONE に設定してください。

設定値	有効な機能	推奨ケース
DIAGNOSTIC+TUNING (デフォルト)	Oracle Diagnostics Pack + Oracle Tuning Pack の両方が有効	両 Pack 購入済みの場合のみ使用可
DIAGNOSTIC	Oracle Diagnostics Pack のみ有効。 Tuning Pack は無効	Diagnostics Pack のみ購入済みの場合
NONE	両 Pack 機能が無効	Pack 未購入の場合に必ず設定

### 3.4 Multitenant (CDB/PDB) ライセンスルール

Oracle Database 19c 以降、マルチテナント・アーキテクチャ (CDB/PDB) が主流です。PDB 数の上限がエディション・ライセンス取得状況・OCI 利用形態によって厳密に規定されています。(→付録 A: R1 参照)

エディション/環境	Multitenant なし	Multitenant Option 取得済み	備考
Oracle AI Database Free	16 PDBs (Free resource limits 適用)	N/A (Option なし)	Free 特有の制限あり
SE2-ODA	3 PDBs (上限)	N/A (Option なし)	SE2 は Multitenant Option 購入不可
EE (オンプレ)	3 PDBs (上限)	252 PDBs	3PDB 超えるには Option 購入必須
EE-ES (Exadata 等)	3 PDBs (上限)	4096 PDBs	

BaseDB EE-HP/EE-EP (OCI)	BYOL: 3 PDBs	BYOL+Option: 4096 PDBs; License Included: 4096 PDBs	License Included 時は Option 込み
Authorized Cloud Environments (ACEs)	3 PDBs (上限)	N/A (OCI 以外は Option 取得不可)	AWS/Azure/GCP は 3 PDB 上限

△ Container Database (CDB\$Root) の Standby は、CDB\$Root のみ ReadOpen→ADG 不要。ただし、いずれかの PDB を Read-Open する場合は Active Data Guard Option が必要です (LIUM G43241-08 確認)。

### 3.5 使用状況の検知方法

検知ツール/方法	内容	注意事項
options_packs_usage_statistics.sql	MOS (My Oracle Support) の Document ID KB143588 から入手。Options/Packs・機能の使用状況を一覧表示	「情報提供目的のみ」。ライセンス権利・要件を示すものではない (LIUM 明記)
DBA_FEATURE_USAGE_STATISTICS	内部ビュー。Oracle 機能の使用履歴を管理	直接エンタイトルメントを示すものではない
CONTROL_MANAGEMENT_PACK_ACCESS	Diagnostics/Tuning Pack の有効/無効を制御	NONE にすれば Pack 機能が無効化される。ただし過去の使用履歴は残る
V\$ACTIVE_SESSION_HISTORY (ASH)	Diagnostics Pack 必須のビュー。使用履歴が残る	このビューへのアクセス自体が Diagnostics Pack 使用の証拠となる

#### ▶ 実務チェックポイント

- 使用中の EE サーバーの Options/Packs 購入状況を発注書で確認したか
- CONTROL\_MANAGEMENT\_PACK\_ACCESS がライセンス取得状況と一致しているか
- PDB 数が上限 (EE: 3 or 252、EE-ES: 3 or 4096) を超えていないか
- AWR レポートや ASH の使用が Diagnostics Pack 取得済みの環境に限定されているか

- `options_packs_usage_statistics.sql` の結果を定期的に確認し、未ライセンス機能の使用がないことを検証しているか

## 第4章 アーキテクチャ別ライセンス計算

現代のエンタープライズ環境では、仮想化・コンテナ・クラウド・DRの複合アーキテクチャが一般的です。Oracle社は仮想化技術の種類によって全く異なるライセンス算定ルールを適用します。（→付録A: R6, R7, R10 参照）

### 4.1 ソフト・パーティショニング（Soft Partitioning）

△ Oracle 公式ポリシー：ソフト・パーティショニングは、いかなる場合もライセンス算定対象の物理コア数を制限する手段として認められません。（Partitioning Policy, Feb 14, 2022）

技術	分類	ライセンス対象の範囲
VMware vSphere/ESXi	ソフト・パーティショニング	vMotion 等で移動可能な範囲（同一 vCenter クラスタ内）の全物理ホストのすべての物理コア
Oracle VM（デフォルト設定）	ソフト・パーティショニング	関連する全物理ホストの全コア
Oracle Linux KVM（標準設定）	ソフト・パーティショニング	全コア（Hard Partitioning 設定のみ例外）
AIX Workload Manager	ソフト・パーティショニング	全コア（制限不可）
Docker コンテナ（--cpus 制限）	ソフト・パーティショニング	ホスト全コア（CPU limit 設定は認められない）

### 4.2 ハード・パーティショニング（Hard Partitioning）

Oracle 承認のハード・パーティショニング技術を使用する場合に限り、当該パーティションの Cap（上限コア数）のみをライセンス対象とすることが認められます。

承認技術	条件	注意事項
Physical Domains (PDomains)	物理的ドメイン分離	
Solaris Zones (Capped)	Capped モードのみ有効	UnCapped は不可

IBM LPAR (Capped)	Capped パーティションのみ	IBM Power VM Live Partition Mobility 使用時は移動元・先の両方が必要
IBM Micro-Partitions (Capped)	Capped のみ	TurboCore モードも不可 (全コアが対象になる)
HP vPar/Integrity VM (Capped)	Capped のみ	
Fujitsu PPAR	物理パーティション	
Oracle Linux KVM (特定設定)	特定コアを Hard Partitioning 設定した場合のみ	oracle.com/a/ocom/docs/linux/ol-kvm-hard-partitioning.pdf 参照

※ すべての承認ハード・パーティショニング技術には、コア数の上限 (Cap) の設定が必須です。

### 4.3 Trusted Partitioning (Oracle Engineered Systems のみ)

Oracle Engineered Systems (Exadata・Private Cloud Appliance 等) において、Oracle VM (OVM) または Oracle Linux KVM をハイパーバイザーとして使用し、Oracle Enterprise Manager で監視している場合のみ、「Trusted Partition」として仮想 CPU に基づくサブキャパシティライセンスが認められます。

Engineered System	バージョン要件	OEM 要件
Exadata Database Machine	12.1.2.1.0 以上の Exadata Storage Server Software	OEM Agent 必須
Private Cloud Appliance (PCA)	1.0 以上の Oracle PCA controller software	X9-2 以降は別メカニズム (MOS Note 2833293.1 参照)
Exalogic Elastic Cloud	2.x 以上の Exalogic Software	OEM Agent 必須

※ Trusted Partition 環境では 2 vCPU = 1 物理コア 換算。ライセンスは 2 物理コア単位で調達。ハイパースレッディングを有効にすること。

### 4.4 コンテナ・Kubernetes におけるライセンス

コンテナ・Kubernetes 環境のライセンスルールは「Running and Licensing Oracle Programs in Containers and Kubernetes Version 1.1 (2024)」に基づきます。(→付録 A: R10 参照)

ルール	内容	実務上の対応
-----	----	--------

Image Pull 時点でライセンス発生	Oracle Programs を含むコンテナイメージをホスト/Kubernetes Node に pull した時点でライセンスが必要	Pull するホスト/Node を管理 ・制限することがライセンス管理の核心
CPU リソース制限は無効	docker run --cpus 等の CPU リソース制限は Hard Partitioning として認められない	CPU Limit に頼ったライセンス削減は不可
Kubernetes: node labels + node selectors	node ラベル設定と pod の nodeSelector の組み合わせで、Oracle Programs 稼働 Node を限定できる	kubectl label nodes & spec.nodeSelector の組み合わせ
共有ストレージ上のイメージ	SAN 等の共有ストレージにイメージが保存されていても、pull していない他ホストのライセンスは不要	Pull するホストを明示的に制御する

#### 4.5 DR (データリカバリ) ・高可用性環境

データリカバリ環境のライセンス規則は「Licensing Data Recovery Environments (Dec 15, 2024)」に基づきます。(→付録 A: R7 参照)

DR 方式	ライセンスルール	例外・注意事項
Failover (クラスター)	10 日ルール: 同一 SAN ・同一 DC の構成で年間 10 回 (各 24 時間) まで無償フェイルオーバー可。11 日目以降は DR ノードもライセンス必要	メンテナンスダウンタイムも 10 日にカウント。NUP 最小要件は DR ノード 1 台分のみ免除
Standby ・ Mirroring (コピー ・ 同期)	すべての Oracle Program がインストールされた DR サーバーは標準ポリシーに従い完全ライセンスが必要	例外①: RAC は DR サーバーでは不要 (使用しない場合) 例外②: Oracle Data Management Cloud Services の場合は使用オプションのみ必要
バックアップテスト	物理バックアップのテストに限り: 年 4 回まで、1 回あたり最大 2 日間、無償で実行可能	リモートミラーリング等には適用不可

Data Guard・関連機能	ライセンス要件
Oracle Data Guard - Redo Apply (Physical Standby)	EE/EE-ES: 標準 EE ライセンスに含まれる (Extra Cost 不要)
Oracle Data Guard Far Sync	Far Sync instance のサーバーには Oracle DB ライセンス不要 (Special License Rights, LIUM G43241-08)
Oracle Active Data Guard (Physical Standby Read-Only)	EE/EE-ES: Extra Cost Option。読み取りアクセスする PDB ごとに ADG ライセンス必要
GoldenGate Supplemental Logging	ENABLE_GOLDENGATE_REPLICATION=TRUE を設定する 場合、Oracle GoldenGate ライセンスまたは認定マネージド クラウドサービスが必要

### ▶ 実務チェックポイント

- VMware 環境で Oracle DB を実行する場合、vCenter クラスター全体（移動可能範囲）の全物理コアをライセンス計算に含めているか
- Kubernetes 環境で node labels+node selectors を設定し、Oracle Programs を特定 Node に限定しているか
- FarSync instance のサーバーに Oracle DB ライセンスを誤って調達していないか（Special License Rights で不要）
- DR Failover 環境で年間 10 日を超えていないか。超えた場合は DR ノードもライセンス取得済みか
- GoldenGate Supplemental Logging  
(ENABLE\_GOLDENGATE\_REPLICATION=TRUE) 使用時に GoldenGate ライセンスを取得しているか

## 第5章 Cloud / OCI / Authorized Cloud Environments

クラウド環境の Oracle ライセンスは「Authorized Cloud Environments (ACEs) 」

(AWS/Azure/GCP) と「Oracle Cloud Infrastructure (OCI) 」で異なるルールが適用されます。混同が最大のリスクです。(→付録 A: R1, R9 参照)

### 5.1 Authorized Cloud Environments (ACEs)

ACEs は Amazon EC2/RDS、Microsoft Azure、Google Cloud Platform が対象です。(Cloud Licensing Policy, June 12, 2024)

クラウド	EE Processor ライセンス換算	SE2 Processor ライセンス換算	SE2 最大インスタンスサイズ
Amazon EC2/RDS	HT 有効時: 2 vCPU = 1 Processor HT 無効時: 1 vCPU = 1 Processor	HT 有効: 4 vCPU 以下 = 1 Socket 4 vCPU 超は 4 vCPU 単位で切り上げ = Socket とカウント	最大 8 vCPU (SE2) / 16 vCPU (旧 SE)
Microsoft Azure	同上	同上	同上
Google Cloud Platform	同上	同上	同上

\* ACEs では Processor Core Factor Table は適用されません。vCPU 換算ルールのみ使用します。

ACEs 重要ルール	内容
Hyper-threading 設定の確認	インスタンスの HT 設定が「有効 (2 vCPU = 1 Processor) 」か「無効 (1 vCPU = 1 Processor) 」かを必ず確認
Multitenant (CDB/PDB)	ACEs での Multitenant 使用は 3 PDB 上限 (Multitenant Option は購入不可)
ULA と ACEs	ULA (Unlimited License Agreement) で ACEs を使用可能。ただし ULA 終了時の認定 (Certification) に ACEs の使用分は含まれない
NUP 最小要件	EE: 2 vCPU (x86 HT 有効) につき最低 25 NUP; SE2: 8 vCPU (x86 HT 有効) につき最低 10 NUP

## 5.2 Oracle Cloud Infrastructure (OCI) のサービス

OCI上の Oracle Database サービスは大きく「License Included (LI)」と「BYOL (Bring Your Own License)」の2形態があります。

OCI サービス名	略称	含まれるライセンス (LI時)
Oracle Base Database Service Standard Edition	BaseDB SE	SE2 ソフトウェア
Oracle Base Database Service Enterprise Edition	BaseDB EE	EE ソフトウェア
Oracle Base Database Service Enterprise Edition - High Performance	BaseDB EE-HP	EE+Advanced Security、Advanced Compression、Multitenant 等
Oracle Base Database Service Enterprise Edition - Extreme Performance	BaseDB EE-EP	EE+クラウド向け全 Options/Packs (Active Data Guard、RAC 含む)
Oracle Exadata Database Service on Dedicated Infrastructure / Cloud@Customer	ExaDB	EE+全 Options/Packs (Exadata 向け)
Oracle Autonomous Database (Serverless/Dedicated)	ADB-S/ADB-D	専用料金体系。LIUM 特別条項参照
比較項目	BYOL (既存ライセンス持ち込み)	License Included (OCI使用料を含む)
コスト構造	OCI compute 料金のみ (ライセンス料金なし)	OCI compute 料金+ライセンス料金 (込み)
追加利用権	オンプレ EE ライセンスを OCI に持ち込むと、Multitenant option 等の追加機能が付与される (LIUM Special License Rights 参照)	N/A (LI はサービス料金に含む)
PDB 数 (Multitenant)	既存 BYOL ライセンス次第。 Multitenant 未取得: 3 PDB; 取得済み: 4096 PDB	BaseDB EE-HP 以上は Multitenant 込みで 4096 PDB
OCPU への換算	x86: 1 Processor = 2 OCPU; Ampere: 1 Processor = 4 OCPU	料金体系に基づく

## 5.3 Cloud 移行時の注意事項

注意事項	内容
OCI ≠ ACEs	OCIは Authorized Cloud Environments に含まれない。OCI 専用の BYOL 換算ルール（OCPU 換算）を適用すること
ULA 認定問題	ACEs で ULA を使用した場合、その使用量は ULA 終了時の Certification に含まれない。ULA 更新前に確認必須
BYOL 追加利用権	OCI BYOL には追加利用権があります。LIUM G43241-08 「Special License Rights」セクションで「Oracle BYOL」の項目を確認

### ▶ 実務チェックポイント

- ACEs と OCI を明確に区別してライセンス計算しているか
- ACEs 環境の Hyper-threading 設定を確認し、適切な vCPU 換算を使用しているか
- BYOL for OCI 使用時、OCPU 換算（x86: 1 Processor = 2 OCPU）を適用しているか
- ULA を ACEs で使用している場合、ULA Certification 時に除外する旨を把握しているか

## 第6章 サポート・更新・契約ライフサイクル

Oracle Software Technical Support Policies (Effective Date: 06-February-2026) は、ベンダーマネージャーが最も習熟しなければならない文書の一つです。更新費算定ルール・License Set・Matching Service Levels・Reinstatement の誤解が、数百万～数千万円規模のコスト損失につながります。(→付録 A: R8 参照)

### 6.1 License Set (ライセンスセット)

License Set とは、同一の発注書 (Ordering Document) または相互に依存する契約書によって取得されたライセンスのグループです。

ルール	内容	実務上の影響
License Set 単位の更新	License Set 内のすべてのライセンスに対してサポートを更新するか、全部解約するかが原則	一部のライセンスだけサポートを外すことは原則できない
License Set 間の独立性	異なる License Set のライセンスはそれぞれの Set で管理	複数の発注書を適切に管理することが重要
License Set の確認方法	発注書 (Ordering Document) と既存の契約書を確認	Oracle カスタマーサポートポータルでも確認可能

### 6.2 Matching Service Levels

同一 License Set 内のすべてのライセンスには、同一のサポートレベル (Matching Service Levels) を適用する必要があります。

サポートレベル	内容	更新コスト目安
Software Update License & Support (Premier Support)	最新パッチ・バグフィックス・技術サポートへのフルアクセス。通常期間: リリース日から 5 年間	ライセンス定価の 22%/年
Extended Support	Premier Support を超えた期間に特定リリースをサポート。追加費用あり	Premier Support 料金に追加料金 (10%~20%程度)
Sustaining Support	技術サポートは継続されるが、新規パッチ・バグフィックスなし	Premier Support と同等の料金 (コスト効率低)

△ Matching Service Levels 違反：同一 License Set 内のあるライセンスに Premier Support を適用し、別のライセンスを Sustaining Support にすることは原則不可です。このルールを把握せずにサポート削減を試みると、Oracle 側から修正を要求されます。

### 6.3 Reinstatement (サポート復元)

ルール	内容
Reinstatement 費用	サポート未払い期間のすべての支援費用（バックサポート費用）を支払う必要がある。通常、未払い期間分のサポート料金+Reinstatement 手数料
Reinstatement 手数料	Oracle Support Policies に基づく手数料。交渉の余地はあるが、高額になる傾向
未使用ライセンスのサポート削減	ライセンス数を削減してサポート費用を下げることは License Set ルール上制約がある。削減した場合も再取得時は Reinstatement 費用が発生

### 6.4 サポート更新の年次管理プロセス

時期	作業内容	確認事項
更新日 3~4 ヶ月前	Oracle 支援更新見積書を受領・確認	License Set 構成・Matching Service Levels・ライセンス数が正確か
更新日 2 ヶ月前	内部承認・予算確保	削減検討がある場合は License Set ルールと Reinstatement リスクを評価
更新日 1 ヶ月前	最終確認・発注	発注書の内容が Oracle のシステムと一致しているか
更新後	台帳更新・次回更新日のカレンダー登録	CSI (Customer Support Identifier) 番号の更新確認

#### ▶ 実務チェックポイント

- 自社の License Set の構成を発注書から把握しているか
- サポート更新見積書で Matching Service Levels が守られているか確認しているか
- ライセンス数削減を検討する際に Reinstatement・Repricing リスクを評価しているか

- Oracle Support Contract (CSI) の有効期限をカレンダーで管理しているか

## 第7章 コンプライアンス運用 SOP

ライセンスコンプライアンスを継続的に維持するには、Entitlement 台帳・Deployment 台帳・使用状況証跡の3点を連携させた運用体制が必要です。

### 7.1 Entitlement 台帳の設計

管理項目	内容	更新トリガー
製品名・エディション	Oracle AI Database 26ai EE 等	新規調達・バージョンアップ時
メトリック	Processor / Named User Plus	契約変更時
ライセンス数	発注書の数量	調達・削減時
Options/Packs	購入済み Options・Packs のリスト	追加調達・削除時
発注書番号	Ordering Document 番号	新規調達時
CSI 番号	Customer Support Identifier	サポート更新時
サポート有効期限	年間更新日	毎年更新時
License Set ID	所属する License Set	契約変更時

### 7.2 Deployment 台帳の設計

管理項目	内容	確認方法
サーバーホスト名・IP アドレス	本番・開発・DR すべての Oracle 稼働サーバー	DB サーバー棚卸
CPU モデル・コア数・ソケット数	Processor Core Factor 計算の根拠	ハードウェア情報収集 (DMI/lshw 等)
仮想化環境	物理/VMware/KVM/IBM LPAR 等の種別と Cluster 範囲	仮想化管理ツール (vCenter 等) から収集
Oracle DB バージョン・エディション	26ai EE / 19c SE2 等	Oracle Inventory または v\$version
インストール済み Options/Packs	DBA_FEATURE_USAGE_STATISTICS と Options/Packs script 結果	定期的に行う・記録

クラウド/コンテナ環境	OCI/ACEs/Kubernetes Node の種別と範囲	Cloud 管理コンソール・kubectl get nodes
DR 環境の状態	Standby/Failover 構成・最終フェイルオーバー日	Data Guard 管理ツール・ログ

## 7.3 Evidence Pack の構成

Oracle LMS/GLAS 監査に備え、以下の証拠を常時収集・保管してください。

証拠種別	収集方法	保管期間推奨
options_packs_usage_statistics.sql 実行結果	MOS KB143588 からスクリプト入手。定期実行（月次推奨）	3年以上
DBA_FEATURE_USAGE_STATISTICS スナップショット	SQL にて定期取得	3年以上
サーバー棚卸（CPU/コア/ソケット情報）	lshw、dmesg、サーバー BIOS データ	変更のたびに更新・保管
vCenter クラスタ構成情報	vCenter API または管理コンソールからエクスポート	変更のたびに更新・保管
Kubernetes node 一覧 (kubectl get nodes -o wide)	定期取得	変更のたびに更新
Ordering Documents ・ Amendments	Oracle Customer Portal からダウンロード	永続保管
DR Failover イベントログ	フェイルオーバー発生日時・期間の記録	3年以上
Cloud 使用状況（OCI/ACEs コンソール）	月次エクスポート	3年以上

## 7.4 Oracle 監査（LMS/GLAS）対応プロトコル

フェーズ	対応内容
監査通知受領	社内の法務・調達・IT 部門に即時報告。Oracle LMS 担当者との窓口を一本化。社内での任意の証拠提供を停止し、正式なスコープ確認を先行させる

スコープ確認	監査対象期間・製品・拠点・環境を書面で確認。曖昧なスコープのまま証拠提供しない
内部棚卸・ギャップ分析	Entitlement 台帳と Deployment 台帳を照合。過剰ライセンス・不足ライセンスを特定。不足が見込まれる場合は法務・調達と是正計画を策定
Oracle LMS への回答	書面での回答を原則とする。口頭約束・メールの曖昧な表現を避ける。不明確な場合は「確認します」と回答し、即答しない
是正・交渉	不足ライセンスが確認された場合は是正計画を提示。監査ペナルティと通常調達の差額・契約条件を比較検討した上で交渉

### ▶ 実務チェックポイント

- Entitlement 台帳と Deployment 台帳を整備し、四半期に 1 回以上突合しているか
- options\_packs\_usage\_statistics.sql を月次で実行し、結果を保管しているか
- Oracle 監査通知受領時の社内エスカレーション先（法務・調達）を明確にしているか

## 第8章 是正・最適化プレイブック

ライセンス違反が判明した場合、または最適化の余地が見つかった場合の対処パターンを示します。

### 8.1 主要な是正シナリオ

違反/過剰ケース	是正アクション	注意事項
VMware 環境でクラスタ全体をライセンスしていない	①専用ホスト化（Oracle DB 用ホストを分離し vMotion 無効化）または②クラスタ全体のライセンス取得	専用ホスト化は将来の vMotion 禁止を運用で担保する必要がある
Diagnostics/Tuning Pack が未ライセンスだが使用中	①Pack を購入するか ② CONTROL_MANAGEMENT_PACK_ACCESS=NONE に設定し、AWR/ASH 等の使用を停止	過去の使用履歴は残るため、使用開始日の確認が必要
PDB 数が Multitenant ライセンスなしで 3 を超過	①Multitenant Option を購入するか② PDB 数を 3 以下に削減（PDB の統廃合）	PDB 削減はアプリケーション影響を事前確認
SE2 で物理ソケット数が 2 を超えている	①EE へのアップグレードか ② SE2 対応サーバーへの移行（2 ソケット以下のサーバー）	SE2 → EE はメトリック・コスト両面で大幅変化
DR Failover が年 10 日を超過	DR サーバーのライセンスを取得または DR 構成の見直し	
コンテナ image pull が制御されていない	Kubernetes の node labels + node selectors を設定し、Oracle Program 稼働 Node を限定	既存デプロイメントの設定変更が必要
GoldenGate Supplemental Logging（未ライセンス）	①GoldenGate ライセンスを購入か ② ENABLE_GOLDENGATE_REPLICATION=FALSE に設定	

## 8.2 最適化シナリオ

最適化の機会	アクション	効果
メトリック見直し (Processor→NUP)	アクセスユーザー数が少ない場合は NUP へ切り替え	NUP total < Processor 数 ×25 の場合は削減可能
クラウド移行による最適化	ACEs への BYOL 移行でオンプレ インフラコスト削減	インフラコスト削減。ただし License Set・ULA への影響に 注意
OCI BYOL 追加利用権の活用	既存 EE ライセンスを OCI BYOL で使用すると追加機能が付与され る	既存ライセンス資産を最大活用
ULA 活用検討	一定期間の使用量に上限なし。 ULA 終了時に使用数を認定し永続 ライセンス化	急拡大フェーズには有効。ULA 条件を慎重に精査
Options/Packs の不使用機能停止	未使用の Options/Packs を NONE 設定や機能無効化で停止 し、次回更新時にライセンス削減	サポート費用削減。ただし License Set ルールと Reinstatement リスクを考慮

## 第9章 教育カリキュラム設計

本教育資料を活用した Oracle ベンダーマネージャーの育成計画を設計します。

### 9.1 レベル別到達目標

レベル	対象者目安	到達目標（知識）	到達目標（スキル）
初級	Oracle DB に携わって1年未満。調達補助・DBA 補助	Processor メトリック算定、NUP 最小要件、エディション違い（EE/SE2/Free）、契約書の種類を理解できる	発注書からライセンス数とメトリックを読み取れる。LIUM の目次を理解できる
中級	1～3年。担当者レベル	仮想化・DR・クラウドの各ルール、Options/Packs の Critical 違反パターン、Multitenant PDB 制限を説明できる	Deployment 台帳の整備・更新ができる。options_packs_usage_statistics.sql を実行・解釈できる
上級	3年以上。VMO 責任者・シニア担当者	License Set・Matching Service Levels・Reinstatement・ULA・監査対応プロトコルを説明できる	ライセンスギャップ分析を独力で実施できる。是正計画・最適化提案を策定できる。監査対応の社内窓口になれる

### 9.2 職務別チェックリスト

職務	重点習得分野
VMO 責任者	第1章（契約体系）、第6章（サポートポリシー）、第7章（監査対応）、第8章（是正・最適化）
調達担当者	第1章（契約体系）、第2章（メトリック基礎）、第6章（サポート・更新）
DBA（オンプレ）	第2章（メトリック）、第3章（Options/Packs）、第4章（仮想化・DR）、第7章（証跡収集）
DBA（クラウド）	第2章（メトリック）、第3章（Multitenant）、第4章（コンテナ/Kubernetes）、第5章（OCI/ACEs）

## 9.3 演習シナリオ

演習#	シナリオ	対象レベル
演習 1	Intel Xeon (12 コア×2 ソケット) を 4 台搭載した VMware クラスタ全体 (12 台ホスト) で Oracle EE を実行している。必要な Processor ライセンス数を算定せよ	初級～中級
演習 2	SE2 環境で現在 3 ソケットのサーバーを使用している。何が問題か、どう是正するか答えよ	初級～中級
演習 3	EE 環境で Diagnostics Pack を購入していないが、CONTROL_MANAGEMENT_PACK_ACCESS が DIAGNOSTIC+TUNING のまま 6 ヶ月間稼働していた。監査対応としてどのように対処するか	中級～上級
演習 4	Oracle EE on-premise の既存ライセンスを AWS EC2 (m5.2xlarge, 8 vCPU, HT 有効) に移行する場合、必要な Processor ライセンス数と Multitenant PDB 上限を答えよ	中級～上級
演習 5	Kubernetes 環境で 50 Node のクラスタのうち 5 Node のみで Oracle DB コンテナを実行したい。ライセンス対象 Node を 5 に限定するための手順を述べよ	上級

## 付録 A 一次情報台帳 (2026年5月29日確認)

本資料のすべての記述は以下の一次情報に基づいています。版番号・発効日・URLは2026年5月29日時点で確認済みです。定期的に最新版を確認してください。

ID	文書名	版 / 発効日	法的位置づけ	URL
R 1	Oracle AI Database 26ai LIUM	G43241-08 / May 27, 2026	Program Documenta tion (契約参 照あり)	<a href="https://docs.oracle.com/en/database/oracle/oracle-database/26/dblic/">docs.oracle.com/en/ database/oracle/oracle- database/26/dblic/</a>
R 2	Oracle Database 19c LIUM	E94254-63 / January 2026	Program Documenta tion (契約参 照あり)	<a href="https://docs.oracle.com/en/database/oracle/oracle-database/19/dblic/">docs.oracle.com/en/ database/oracle/oracle- database/19/dblic/</a>
R 3	Oracle License Definitions and Rules	v121525 / Dec 15, 2025	Agreement 参照の契約定 義書	<a href="https://oracle.com/contracts/docs/lic_definitions_and_rules_v121525.pdf">oracle.com/contracts/ docs/ lic_definitions_and_rules_ v121525.pdf</a>
R 4	Oracle License Definitions and Rules (日本語版)	v121525 JP	Agreement 参照 (参考: 英語版が優 先)	<a href="https://oracle.com/contracts/docs/lic_definitions_and_rules_v121525_jp_jpn.pdf">oracle.com/contracts/ docs/ lic_definitions_and_rules_ v121525_jp_jpn.pdf</a>
R 5	Oracle Processor Core Factor Table	Updated Jan 28, 2026	Agreement 参照の算定表	<a href="https://oracle.com/contracts/docs/processor-core-factor-table-070634.pdf">oracle.com/contracts/ docs/processor-core- factor-table-070634.pdf</a>
R 6	Oracle Partitioning Policy	Feb 14, 2022	教育目的 (非 契約的) ※監 査では事実上 重要	<a href="https://oracle.com/a/ocom/docs/it-infrastructure/partitioning-070609.pdf">oracle.com/a/ocom/docs/ it-infrastructure/ partitioning-070609.pdf</a>
R 7	Licensing Data Recovery Environments	Dec 15, 2024	教育目的 (非 契約的) ※監 査では事実上 重要	<a href="https://oracle.com/a/ocom/docs/data-recovery-licensing-070587.pdf">oracle.com/a/ocom/docs/ data-recovery- licensing-070587.pdf</a>
R 8	Oracle Software Technical Support Policies	06-Feb-2026	Service Policy (サポ ートサービス 条件)	<a href="https://oracle.com/contracts/docs/057419.pdf">oracle.com/contracts/ docs/057419.pdf</a>

R 9	Licensing Oracle Software in the Cloud Computing Environment	June 12, 2024	教育目的（非契約的） ※ACEs 規定	<a href="https://oracle.com/a/ocom/docs/cloud-licensing-070579.pdf">oracle.com/a/ocom/docs/cloud-licensing-070579.pdf</a>
R 1 0	Running and Licensing Oracle Programs in Containers and Kubernetes	Version 1.1 / 2024	情報提供目的（非契約的）	<a href="https://oracle.com/a/tech/docs/running-and-licensing-programs-in-containers-and-kubernetes.pdf">oracle.com/a/tech/docs/running-and-licensing-programs-in-containers-and-kubernetes.pdf</a>
R 1 1	Oracle Technology Global Price List	随時更新	価格・NUP 最小要件リファレンス	<a href="https://oracle.com/a/ocom/docs/corporate/pricing/technology-price-list-070617.pdf">oracle.com/a/ocom/docs/corporate/pricing/technology-price-list-070617.pdf</a>

## 付録 B 実務テンプレート集

### B.1 Options/Packs 使用状況チェックリスト

確認項目	確認コマンド/方法	ライセンス要	確認結果
Diagnostics Pack 使用	SELECT * FROM DBA_FEATURE_USAGE_STATISTICS WHERE NAME LIKE '%Automatic Workload Repository%'; CONTROL_MANAGEMENT_PACK_ACCESS 確認	Oracle Diagnostics Pack	
Tuning Pack 使用	SELECT * FROM DBA_FEATURE_USAGE_STATISTICS WHERE NAME LIKE '%SQL Tuning Advisor%'; CONTROL_MANAGEMENT_PACK_ACCESS 確認	Oracle Tuning Pack (Diagnostics Pack 必須)	
Advanced Compression 使用	SELECT * FROM DBA_FEATURE_USAGE_STATISTICS WHERE NAME = 'Advanced Compression';	Oracle Advanced Compression	
Advanced Security (TDE) 使用	SELECT * FROM V\$ENCRYPTION_WALLET; SELECT COUNT(*) FROM DBA_ENCRYPTED_COLUMNS;	Oracle Advanced Security	
Oracle Partitioning 使用	SELECT COUNT(*) FROM DBA_PART_TABLES;	Oracle Partitioning	
PDB 数	SELECT COUNT(*) FROM V\$PDBS WHERE CON_ID > 2;	Multitenant Option (3 超の場合)	
Active Data Guard 使用	SELECT PROTECTION_MODE FROM V\$DATABASE; Standby Read アクセス確認	Oracle Active Data Guard	
GoldenGate Supplemental Logging	SELECT VALUE FROM V\$PARAMETER WHERE NAME='enable_goldengate';	Oracle GoldenGate (TRUE)	

	e_replication';	時)	
--	-----------------	----	--

## B.2 DR 構成判定表

DR 構成	10 日ルール適用	全ライセンス必要	RAC は必要か
クラスター・フェイルオーバー (共有 SAN・同一 DC)	○ (年 10 日以内)	10 日超で必要	DR 側: 不要 (使用しない場合)
Standby (Physical Standby, Data Guard)	×	○ (本番と同一)	DR 側: 不要 (使用しない場合)
Data Guard Physical Standby (Redo Apply のみ)	×	○ (本番と同一)	不要
Active Data Guard (Read- Only Standby)	×	○ (ADG Option 含む)	不要
バックアップテスト (物理バック アップのみ)	年 4 回・2 日以内	テスト以外は必要	N/A

## 付録 C 用語・略語集

用語/略語	正式名称	説明
ACEs	Authorized Cloud Environments	Oracle 公式に承認されたパブリッククラウド環境。現在 AWS EC2/RDS・Azure・GCP。Cloud Licensing Policy の適用対象
ADG	Oracle Active Data Guard	Physical Standby を Read-Only で開放できる EE 追加費用 Option
AWR	Automatic Workload Repository	Oracle DB のパフォーマンス統計情報リポジトリ。Oracle Diagnostics Pack 必須
BYOL	Bring Your Own License	既存オンプレライセンスをクラウドで利用すること
CDB	Container Database	Oracle Multitenant アーキテクチャにおける親（コンテナ）データベース
Core Factor	Processor Core Factor	物理コア数から Processor ライセンス数を算出するための乗数（CPU モデル別）
CSI	Customer Support Identifier	Oracle サポート契約の識別番号
DR	Disaster Recovery	災害復旧環境
EE	Enterprise Edition	Oracle Database Enterprise Edition
GLAS	Global License Advisory Services	Oracle の LMS 後継組織（ライセンス監査担当）
HT	Hyper-Threading	Intel CPU 等の同時マルチスレッディング技術。ACEs 環境の vCPU 換算に影響
LMS	License Management Services	Oracle のライセンス監査担当部門（現在は GLAS と呼称）
LIUM	Licensing Information User Manual	Oracle 製品のライセンス情報ユーザーマニュアル。Program Documentation の一部
MCM	Multi-Chip Module	複数チップを 1 パッケージに統合したプロセッサ。ソケットカウントに特例あり
Multitenant	Oracle Multitenant	複数の PDB（プラガブル DB）を 1 つの CDB 内に統

		合できる機能。EE は追加費用 Option
NUP	Named User Plus	ライセンスメトリックの一種。アクセスするすべての人間・デバイスを対象
OCPU	Oracle Compute Unit	Oracle Cloud Infrastructure における仮想 CPU 単位 (x86: 1 OCPU = 2 vCPU 相当)
OCI	Oracle Cloud Infrastructure	Oracle の IaaS/PaaS クラウドサービス基盤
OMA	Oracle Master Agreement	Oracle との包括的なマスター契約。OLSA や CSA と同等機能
OLSA	Oracle License and Services Agreement	Oracle との包括的なライセンス・サービス合意書
Options/ Packs	Database Options and Management Packs	Oracle Database EE に追加費用で購入できる機能拡張モジュール
PDB	Pluggable Database	Oracle Multitenant アーキテクチャにおける子 (プラグブル) データベース
Processor	Processor License (metric)	ライセンスメトリックの一種。物理コア数×Core Factor で算出
RAC	Oracle Real Application Clusters	複数ノードによるクラスター。EE 追加費用 Option。SE2 では不可
SE2	Standard Edition 2	最大 2 物理ソケット・16 スレッドに制限された Oracle DB エディション
TDE	Transparent Data Encryption	Oracle Advanced Security Option に含まれる暗号化機能
ULA	Unlimited License Agreement	一定期間・無制限数のライセンス使用を認める特別契約
vCPU	Virtual CPU	仮想化環境やクラウド環境における仮想 CPU ユニット
VMO	Vendor Management Office	ベンダー管理部門

© イタムス株式会社 (ITAMS)

本資料は ITAMS が教育目的で作成したものです。無断転載・再配布を禁じます。

各ベンダーの契約条件・使用許諾条件は予告なく変更されることがあります。

最終判断には各ベンダーの公式一次情報および個別契約を必ず参照してください。